

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	東部地域療育センターぼけっと		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 11日	～	2026年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2025年 12月 11日	～	2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○訪問先施設評価実施期間	2025年 12月 11日	～	2026年 2月 20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域療育センターであるため、対象児がセンターを利用している場合、保護者の同意のもと、相談診療部や通園部と情報共有を行うことができる。また、相談支援事業所も併設している為、ぼけっとで相談支援をしている場合は、相談支援専門員とも情報共有を行うことができる。	支援開始前、計画作成時だけでなく、訪問開始後も各々の状況や課題を共有しながら多角的にこどもを捉えることができ、支援プログラムへ活かすことができている。 また、低年齢からの親子での関わりも深いため、家族支援・保護者支援にも活かされている。	引き続き情報共有を行い、必要な支援をセンターとして検討していきます。
2	訪問員に、作業療法士、言語聴覚療法士、保育士を配置し、多職種で支援を行うことで、評価や支援が豊かになっている。	保育士の訪問を中心としながら、各療法士が情報共有、必要時の訪問をすることで、支援内容の見直しを各専門性の意見を踏まえて行うことができる。	今後も、多職種で意見を出し合いながら、より良い支援へつなげていきます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者からの希望があった時に、迅速な対応が困難。	限られた人員のため、訪問に行ける枠数が決まっており、多数の希望があった場合に迅速な対応が困難。	引き続き保護者の要望と併せて訪問先への事前訪問を通して必要性を検討し、全体会議にて必要性の判断や必要な期間、回数を検討していきます。
2	保護者と訪問先のアンケート調査の回収率が低い。	対象数がもともと少ないが、QRコードにして終了時においても、入力されないケースが多々あった。年度末に終了した保護者や訪問先にも改めてアンケートをお願いすることで、少ないが回答をもらうことができた。	より良い支援のために必要なアンケートであることを丁寧に伝え、ご協力をお願いしていく。
3			